

『コロナに打ち勝って』

私は、1年前の吟詩日本秋季号に、コロナ禍の現実を先の見えない真っ暗な夜のような状況ですが、「明けない夜はない」「出口の無いトンネルは無い」ことを信じて「今は根っこを強く育てる事」根っこを大事にしよと呼びかけました。然し一年経つての現実はいまだ真っ暗なトンネルから抜け切れず先が読み切れない状況です。この一年全国の各会・各支部では、根っこであるべき教室活動も休止続き、吟詠大会なども思うように開催出来ず、長引くコロナに対する先行き不安が膨らみ、会員同士の交流も止まり吟詠活動に対する熱意も冷めてこの際辞めてしまおうという会員が多くなっていました。この間総本部では「自律自助の精神」でコロナ対策に万全を期し、安心・安全に創意工夫しながら諸行事も研修会も競吟大会も実施してきました。多くの方々が年齢にかかわらず活き活きと元氣に参加され喜んでいきます。然し反面、コロナを恐れすっかり外出恐怖になってしまった方々が多いというのが現実です。誠に残念なことに本年度3月末の全国会員登録者は1万人の万台を割り込んでしまいました。

『1万人の復活を目指して』

関西吟詩は2年後に創立90周年を迎えます。先人が築いてきた伝統ある関西吟詩の根っこを守るために、もう一度1万人の復活を目指します。今年は折から公益法人化10年目。我々には多くの人々に詩歌吟詠の素晴らしさを知って戴き、人生百年時代に人々の幸せを願って、「吟詠で豊かな老後を・健全な生活を」をモットーに共に学ぶ道を広げること、社会に貢献していくという大きな使命があります。コロナ禍であろうが、もう一度勇気を出して、活動の門戸を外に向かって開き、私達の熱い思いを、多くの皆さんに共有していただく必要があります。遅れていたワクチン接種も進みつつあります。新執行部では、知恵を絞って「出来る施策は全てやる」の強い気持ちで1万人復活への取り組みを進めてまいります。今は我慢の日々ですが、一旦は袂を分かった方々に、もう一度楽しく過ごした日々に戻っていただくべく声を掛けて下さい。再入会の声掛け・周辺の方々への入会のお勧めなど「ひとり一声運動」を心掛けて会員増強にお力をお貸し下さい。トンネルの出口はもうそこまで来ています。これからも勇気をもって共に手を携えて力強く歩みたいものです。会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り致します。

以上